

日本語教育コースや西川研究室に進学を希望するみなさんへ

お薦めの書籍・論文の例

あくまでこの分野の一般的な文献です。各自の研究のために必要な文献は、もちろんこの他に山ほどあると思います。ここにリストされた文献を手始めに、自分でも色々と探してみてください。

★第二言語習得

書籍

大関浩美（2010）『日本語を教えるための第二言語習得論入門』くろしお出版

小柳かおる（2020）『第二言語習得について日本語教師が知っておくべきこと』くろしお出版

小柳かおる（2021）『改訂版・日本語教師のための新しい言語習得概論』スリーエーネットワーク

小柳かおる（2025）『第二言語習得研究とタスクベースの言語指導—課題遂行能力を伸ばす日本語教育を目指して—』くろしお出版

小柳かおる・峯布由紀（2016）『認知的アプローチから見た第二言語習得—日本語の文法習得と教室指導の効果—』くろしお出版

小柳かおる・向山陽子（2018）『第二言語習得の普遍性と個別性—学習メカニズム・個人差から教授法へ—』くろしお出版

迫田久美子（2020）『改訂版 日本語教育に生かす第二言語習得研究』アルク

佐々木嘉則（2010）『今さら訊けない…第二言語習得再入門』凡人社

鈴木祐一（2024）『あたらしい第二言語習得論：Instructed SLA: A New Approach』研究社

福田倫子ほか編（2022）『第二言語学習の心理—個人差研究からのアプローチ—』くろしお出版

Lightbown, P. M. & Spada, N. (2022). *How languages are learned, 5th edition*. Oxford: Oxford University Press.（白井恭弘・岡田雅子訳（2014）『言語はどのように学ばれるか—外国語学習・教育に生かす第二言語習得論』岩波書店） ※日本語訳があるのは第4版ですが、英語は Fifth edition が2022年に出版されています。

論文

西川朋美（2018）「子どもの第二言語習得研究と日本語教育—JSLの子どもを対象とした研究と実践への道しるべ—」『子どもの日本語教育研究』第1号，38-60.

長谷川（西川）朋美（2008）「第二言語習得における臨界期仮説・年齢要因—日本語を対象とした研究に向けて—」『第二言語習得・教育の研究最前線—2008年版—：言語文化と日本語教育』2008年11月増刊特集号，107-137.

★年少者日本語教育・継承語教育

書籍

西川朋美編（2022）『外国につながる子どもたちへの日本語教育』くろしお出版

近藤ブラウン妃美・坂本光代・西川朋美（編）（2019）『親と子をつなぐ継承語教育—日本・外国にルーツを持つ子ども—Heritage language education connecting generations: From the Japanese perspective』くろしお出版

西川朋美・青木由香（2018）『日本で生まれ育つ外国人の子どもの日本語力の盲点—簡単な和語動詞での隠れたつまづき—』ひつじ書房

中島和子（2016）『完全改訂版 バイリンガル教育の方法』アルク

バトラー後藤裕子（2011）『学習言語とは何か—教科学習に必要な言語能力』三省堂

★研究方法・論文の書き方

浦野研・亘理陽一・田中武夫・藤田卓郎・高木亜希子・酒井英樹（2016）『はじめての英語教育研究—押さえておきたいコツとポイント—』研究社

戸田山和久（2022）『最新版 論文の教室—レポートから卒論まで』NHK出版

※その他、教員個人 HP の業績一覧も確認ください。また、日本語教育コース全体の研究分野をよく知るためには、他の教員の HP もチェックすることをお勧めします。（2025年9月作成）